

40^キを元気よく

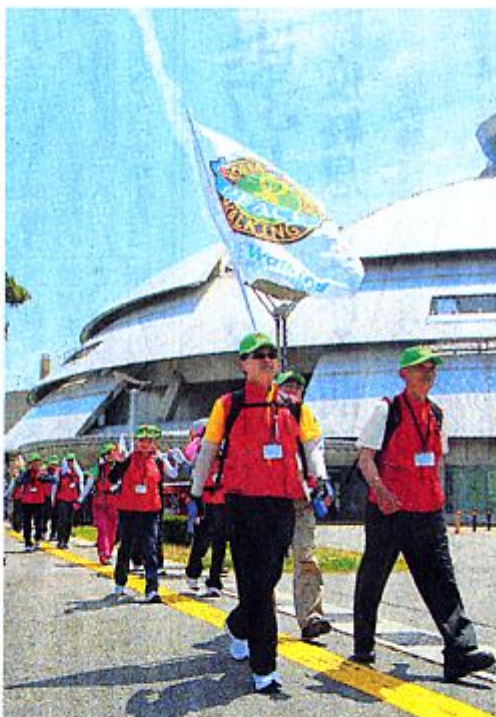
「日韓ピースウォーク」の一行34人

22.6.5 境港—琴浦間を散策

日韓両国のウォーカーによる「日韓ピースウォーク」の一行34人が4日、境港市を出発した。5日から倉吉市などである「第10回日

本海未来ウォーク(NPO法人未来、新日本海新聞社主催)を記念して初めて開かれ、この日朝、韓国・東海から定期貨客船で境港に

到着した一行は琴浦町までの道のりを元気よく歩いた。NPO法人未来(岸田寛昭理事長)が韓国連



夢みなとタワー前を元気に出発する日韓の参加者＝4日、境港市竹内団地

盟(李康玉理事長)とともに初めて実施した。同NPOのメンバーなど11人が2日に韓国・原州市に渡り、原州に拠点を置く大韓ウォーキング連盟のメンバー27人とともにこの日朝境港に到着した。境港市竹内団地の夢みなとタワーで出発式があり、李理事長が「日本海未来ウォークに2004年から参加して友情を深めてきた。今回は10周年を記念して原州から歩いてきました」とあいさつ。岸田

勝治市長らが「私たちは海を介して接しているが、日ごろは声が届かない。歩きながら言葉を交わしてほしい」などと歓迎した。日韓の参加者はこの日、約40^キを歩いて琴浦町に入り、地元の人々を迎えた。5日は日本海未来ウォークに参加し、約40^キを歩く。韓国側の参加者・尹世勲さんは「日本で歩くのは初めてだが、日本の方と一緒に歩き、交流を深めたい」と話していた。